



▲未来づくり
専門員の活動
は Facebook
で発信中です

殺物 飼料



空き家をゲストハウスにリノベーション 泊まれる「タマリバ」作ります

昼間は、ふらっと気軽に立ち寄れるカフェ、子どもの宿題スペース、夜は宿泊客と地域の人々がゆっくり語れる居酒屋。そんな、自然と人が集まる「たまり場」のようなスペースを目指しています。



1 30人以上参加して大掃除を実施 2 「人が集まる場所」をテーマに計4回のワークショップを開催 3 どのように活用したいか参加者それぞれが思い描いた平面図 4 平面図から模型を作成してイメージを形に近づけていく

空き家リノベーションプロジェクト

空き家という未活用財産を10年間借上げ、改修して宿泊施設や交流スペースとして再活用するモデル事業。改修は町が行うが、運営は民間が行う「公設民営」となる。未来づくり専門員を中心に活用方法を検討しながら、これからの空き家活用を考える。



「旧浜園商店」 大根占中央商店街内

人と人のつながりから
まちの魅力を発信する

山中 空き家リノベーションプロジェクトの1軒目となる「旧浜園商店」は、ゲストハウスと呼ばれる簡易宿泊施設にしたいと考えています。ゲストハウスを利用する人は、基本的に素泊まりが多いので、必然的に近所のお食事処や地元のおすすめポイントなどを紹介することが多くなります。その結果、情報発信基地のような存在になっていくことがあるんです。

井上 さらに、泊まるだけではなく、飲食店、待ち合わせ場所、休憩所のような機能も持たせることができるんです。子どもの宿題スペースがあるゲストハウスも多くあります。**山中** 昼間は地元の人が年齢や性別に関係なく、気軽に立ち寄ってまったり交流できるカフェとか、夜は宿泊者と地元の人が飲める「たまり場」みたいな場所になれば、地域も盛り上がりながら、人を呼び込めると思っています。**井上** そうそう。旅行者だけ

でなく、地元の人も毎日気軽に立ち寄れる宿みたいなイメージですね。

山中 あと、「その地域の人たちと交流したい」と思って利用する人が多いんです。宿ではありながら、誰もが気軽に立ち寄れる場所ですね。

井上 僕がゲストハウスを作りたいと思ったきっかけは、学生が店長をするゲストハウスに出会ったからです。そこでは、知らない人同士が出会い、自然とコミュニケーションが生まれ、いつの間にか人が集まる「場」ができていました。驚いたのと同時に、このようなやり方で人がつながっていくことに感動したんです。「自分もゲストハウスを通じて地域を盛り上げたい」という思いが強くなり、すぐに全国のゲストハウスをヒッチハイクで巡ったんです。15カ所回りました(笑)

10年の止まった時間が再び動き出すとき

井上 5月から旧浜園商店の掃除も始めたんですが、家具などかなりの荷物があって、

正直二人では厳しいと思いま

した。そこで、6月1日に大掃除をするので協力してほしいと呼びかけたんですが、土曜日の朝早くから20人を超える人たちが手伝いに来てくれました。

山中 途中参加の方も含めると最終的には30人以上集まったんじゃないかな？休日を使っただけの大掃除が、とても楽しい一日になりました。

井上 掃除をしてみると下校中の子どもたちが不思議そうに覗きこんできます。ペンキ塗りは手伝いに来てくれると言ってくれました(笑)

山中 雨戸を外したのは10年ぶり。久しぶりに明かりが灯ると、家に命が吹き込まれたような感じでした。

空き家を活かすことが魅力に気づくきっかけに

山中 今後は、水回りなど専門業者しかできない部分は委託しますが、壁や床など自分たちでできる範囲は、自分たちを中心に地域の方たちや学生、子どもたちなど、たくさんの人と一緒に作り上げたい

と思っています。

井上 壁にペンキを塗ったり、机やイスを作ったり、自分たちができる事は自分たちで作っていききたい。そして町のみんなで創り上げた場所、錦江町に来てくれた人をおもてなしできたら楽しそうじゃないですか？

山中 今回のプロジェクトで「空き家をゲストハウスにする」だけで錦江町に大きな変化を起こすことはできないと思います。でも、このゲストハウスをきっかけに訪れる人が増えて、錦江町の魅力をもっと知ってもらえるきっかけになると思っています。

井上 ゲストハウスは、地域の人たちが初めて成り立つ宿泊施設なんです。二人だけでは錦江町の良さを伝えられないので完成に向けてみんなで取り組みたいです。

山中 秋ごろから壁のペンキ塗りや床の張替え、家具作りを始める計画です。子どもから大人まで、みんな楽しく作業したいと思っています。これからの活動はフェイスブックで公開していきます。